

*Luxman*

VACUUM TUBE INTEGRATED AMPLIFIER

SQ-38u

*Owner's Manual*

このたびは、ラックスマンの真空管プリメインアンプ SQ-38u をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHKがラジオの本放送を開始した1925年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

# 目次

使用上の注意	1
各部の名称と用途	2
接続方法および接続図	6
操作方法	8
リモコンの使用方法	9
ブロックダイアグラム	10
規格	11
アフターサービスと品質保証について	12
修理に出される前に	13

## アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

## 通風孔について

本機は、真空管を使用した発熱の多いアンプのため、天面・底板の通風孔はふさがないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を上積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

## 併用機器との接続時の注意

本機に CD/DVD プレーヤー、チューナーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になったりすることがあります。

本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

## スピーカー接続時のご注意

スピーカー・システムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子の部分で、⊕ ⊖ 間がショート（短絡）することのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

## 電源 ON 後すぐに音は出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミューティング回路が組み込まれているため、電源 ON 後すぐには音が出ません。

このタイム・ミューティング回路が解除されるまでに、アンプの音量ボリュームが上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度なレベルにセットしてください。

## 修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

## お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

## 安全上のご注意



# 警告



本機の AC アウトレットが供給できる電力は 200W までです。接続する装置の消費電力の合計が 200W を超えないようにしてください。火災の原因となります。（電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。）



# 注意

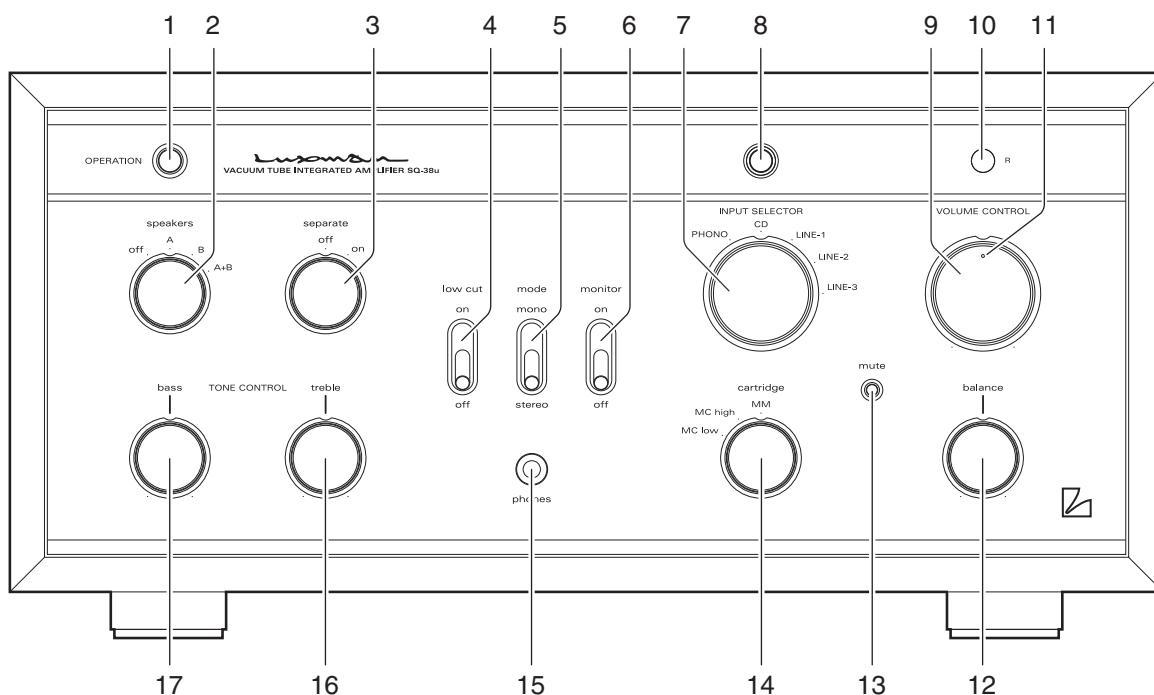


本機は重いので、開梱や持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。



本機は真空管を使用したアンプです。電源の入った状態では本体がかなり熱くなりますので、手で触れたりすることのないようお気をつけください。また小さなお子様や放し飼いにしたペットのいる場所でのご使用は安全のためお控えください。

# 各部の名称と用途



## 1. 電源スイッチ (OPERATION)

電源を ON/OFF するためのスイッチです。入出力端子の接続時には必ずこのスイッチを OFF にしてください。電源スイッチを OFF にしてから、再度 ON にするときは 1 分以上時間をおいてください。

## 2. スピーカー・セレクター (speakers)

リアパネルのスピーカー端子“A”、“B”に 2 系統のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

off: スピーカーから音を出さないときは、このポジションにします。

ヘッドフォン出力は切れません。

A: A 系統のスピーカー端子を選択します。

B: B 系統のスピーカー端子を選択します。

A+B: 2 系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。

両方の出力端子は、並列接続になっていますので、同時に鳴らすときはインピーダンス 8 Ω 以上のスピーカーを接続してください。

## 3. セパレート・スイッチ (separate)

このスイッチは、プリ・アンプ部とメイン・アンプ部を分離します。

off: 通常のプリ・メイン・アンプとして使用する場合は、このポジションにします。

on: 外部からの信号をリアパネルの MAIN IN 端子からメイン・アンプ部に送りこむことができます。

---

セパレート・スイッチが ON のときは、本機のボリューム・コントロールで、接続されたスピーカーの音量調節はできません。音量の調節は、MAIN IN 端子に接続したコントロールアンプなどの入力機器側でおこなってください。

また、CD/DVD プレーヤーなどの音量調節の機能しないダイレクト出力を MAIN IN 端子に入力すると、常にフルパワー状態となり、スピーカーを破壊する可能性があります。

これらの入力機器は、必ず音量調節機能のあるコントロールアンプなどを中継し、音量を絞った状態で、スピーカーから音が出てから、お好みの音量になるよう調節してください。

---

## 4. ローカット・スイッチ (low cut)

低音域をカットするスイッチです。

off: 通常の状態です。

on: 低音域がカットされます。

## 5. モード・スイッチ (mode)

出力モードの切り替えスイッチです。

mono : 左右チャンネルの信号がミックスされます。

stereo : 通常のステレオ再生をします。

## 6. モニター・スイッチ (monitor)

レコーダーからのモニター再生を行うためのスイッチです。ONの状態では、レコーダーの再生ができますようになります。OFFの状態では、入力セレクターで選択したソースからの再生ができます。

## 7. インプット・セレクター (INPUT SELECTOR)

CD/DVD プレーヤー、チューナーなど各入力端子に接続した入力機器を選択するためのスイッチです。PHONO、CD、LINE-1、LINE-2、LINE-3 の5つの位置があり、それぞれリアパネルの入力端子と対応しています。再生したい入力系統の位置に指標を合わせて、入力を選択します。

## 8. パイロットランプ

パワーオンと同時にこのパイロットランプがオレンジ色に点灯します。

## 9. ボリューム・コントロール (VOLUME CONTROL)

音量を調節するためのつまみです。

左側へ回し切った位置では音が出ません。右に回していくと音量は徐々に大きくなっていきます。

## 10. リモコン受光部 (R)

付属のリモコンからの信号を受信するためのセンサーです。センサーの前はふさがないようにしてください。

## 11. 音量ボリューム・インジケーター

音量レベルの指標となるインジケーターです。

電源スイッチを入れた直後のミュート(消音)時間中と、本体またはリモコンのミュート (MUTE) 操作を行った際は点滅します。

## 12. バランス (balance)

左右チャンネル間の音量バランスを調節するためのつまみです。左に回せば音量のバランスが左に片寄り、右に回せば音量のバランスが右に片寄ります。通常は中央位置で使用し、必要に応じて調節してください。

## 13. ミュート・ボタン (mute)

一時的に消音するためのボタンです。このボタンを押してミュート状態にするとボリューム・インジケーターが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

## 14. カートリッジ・セレクター (cartridge)

ご使用になるカートリッジのインピーダンスによって、アンプの入力インピーダンスを合わせる必要があります。本機は、このカートリッジ・セレクターにより、アンプの入力インピーダンスを選択することができます。ポジションはMMと、MCはそれぞれLow、highの2つあります。カートリッジの取扱説明書に書いてある適合入力インピーダンスに従って選択するか、お好みの音質になる様に選択してください。

カートリッジ セレクター	MM	MC high	MC low
インピーダンス	47kΩ	40Ω	2.5Ω

## 15. ヘッドフォン・ジャック (phones)

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。ヘッドフォンだけで聴くときは、スピーカー・セレクターを“off”にしてください。

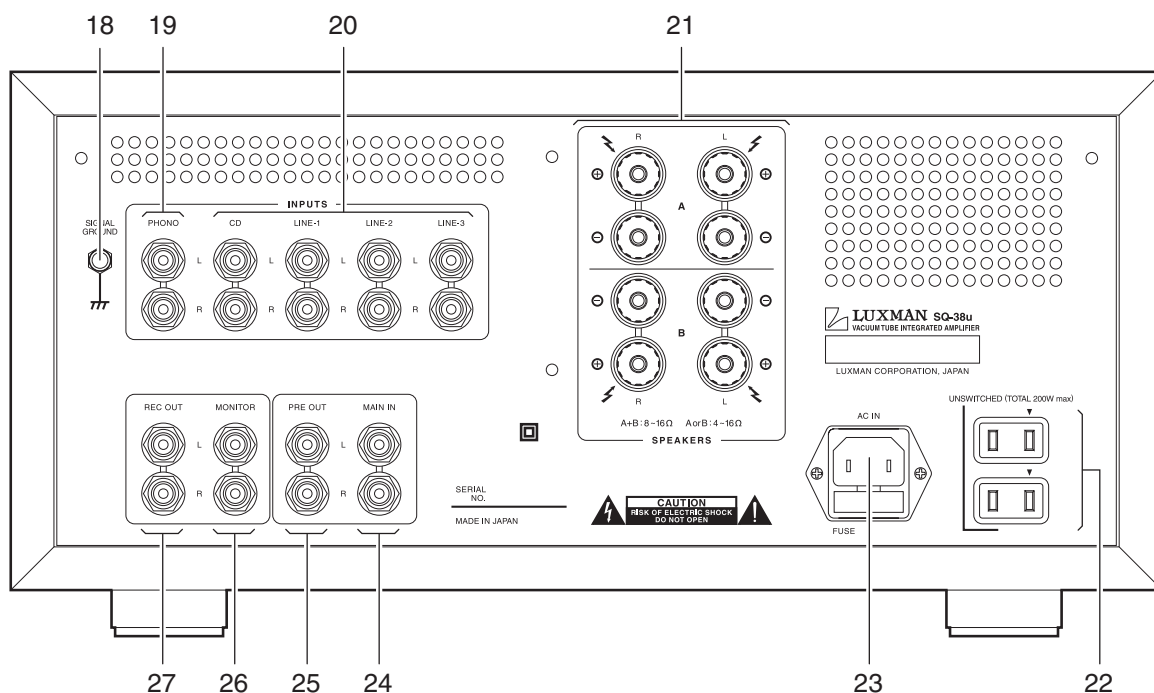
## 16. 高域用トーン・コントロール TONE CONTROL (treble)

高音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと高音域が増強し、左に回せば減衰します。

## 17. 低域用トーン・コントロール TONE CONTROL (bass)

低音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

# 各部の名称と用途



## 18. シグナル・グラウンド端子 (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのもので、アナログプレーヤーやトーンアームと接続します。安全のためのアースではありません。

## 19. フォノ入力端子 (PHONO)

アナログプレーヤーやトーンアームから出力されるRCAピンケーブルの入力端子です。

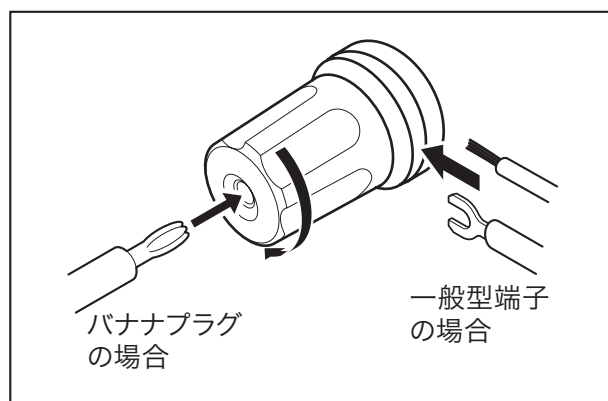
## 20. ライン入力端子

### (CD, LINE-1, LINE-2, LINE-3)

CD/DVDプレーヤー、SACDプレーヤー、チューナー、ビデオデッキ、TV音声などのハイレベル信号入力のための端子です。これらの入力端子はすべて同じ働きをします。

## 21. スピーカー出力端子 (SPEAKERS)

この端子にスピーカー・システムを接続します。L側には左スピーカーの端子を、R側には右スピーカーの端子を、極性(⊕、⊖)を合わせて接続してください。



## 22.AC アウトレット (UNSWITCHED)

他の機器へ電源を供給するための補助電源コンセントです。本機の電源スイッチの ON/OFF に関係なく、電力を供給します。

---

本機の AC アウトレットが供給できる電力は 200W までです。接続する機器の消費電力の合計が 200W を超えないようにしてください。

また、供給電力以内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

---

## 23.AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。  
電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

## 24.メインイン端子 (MAIN IN)

プリ部、メイン部を分離して、この端子からメイン・アンプ部に入力を送りこむことができます。

## 25.プリアウト端子 (PRE OUT)

プリ・アンプ部の出力を取り出すときに使います。この端子は、セパレート・スイッチの ON/OFF にかかわらず、常に出力していますので、外部のパワーアンプと組み合わせて Bi-AMP (バイ・アンプ) 接続を行うことができます。

## 26.モニター端子 (MONITOR)

レコーダーのライン出力を再生するための端子です。レコーダーの出力端子と接続します。

## 27.録音出力端子 (REC OUT)

レコーダーの録音用の出力信号を送り出すための端子です。レコーダーのライン入力端子に接続します。



# 接続方法および接続図

## 接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック側（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源スイッチと併用機器の電源をすべて OFF にしてください。

## 電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。

### 電源極性の合わせ方

一般家庭用の 2 極の電源コンセントは一方がアース、もう一方が交流 100V となっており、電源ケーブルのプラグを正しい向きに差し込んでいただくことで、電源の極性が全ての機器で一致し、より高音質な音楽再生をお楽しみいただくことができます。本機に付属の電源ケーブルでは、プラグ部に刻印されている文字が正しく読める向きに見たとき、右側の端子がアース側となります。部屋のコンセントのアース側が区別されているとき（差し込み穴が広がっています）は、プラグのアース側がコンセントのアース側になるように差し込んでください。※コンセントのアース側が区別されていないときなど、どちらの向きに電源プラグを差し込んででも本機の基本性能には影響ありません。

## CD プレーヤー、DVD プレーヤー、チューナーなどの接続

CD プレーヤーなど再生機器の出力端子と、本機のライン入力端子（CD、LINE-1、LINE-2、LINE-3 のいずれか）間を L、R 2 本のピンプラグ・ケーブルで接続してください。

接続のときは、左右を間違えないようにしてください。

## アナログ・レコード・プレーヤーの接続

アナログプレーヤーの出力端子と本機のフォノ（PHONO）端子間を L、R 2 本のピンプラグ・ケーブルで接続します。

プレーヤーによってはフォノ・モーターやトーン・アームからのアース線を本機のシグナル・グラウンド端子に接続します。

フォノ・イコライザー付きのアナログ・レコード・プレーヤーまたは、単体のフォノ・イコライザーの出力は、本機のライン入力端子（CD、LINE-1、LINE-2、LINE-3 のいずれか）に接続してください。

## スピーカーの接続

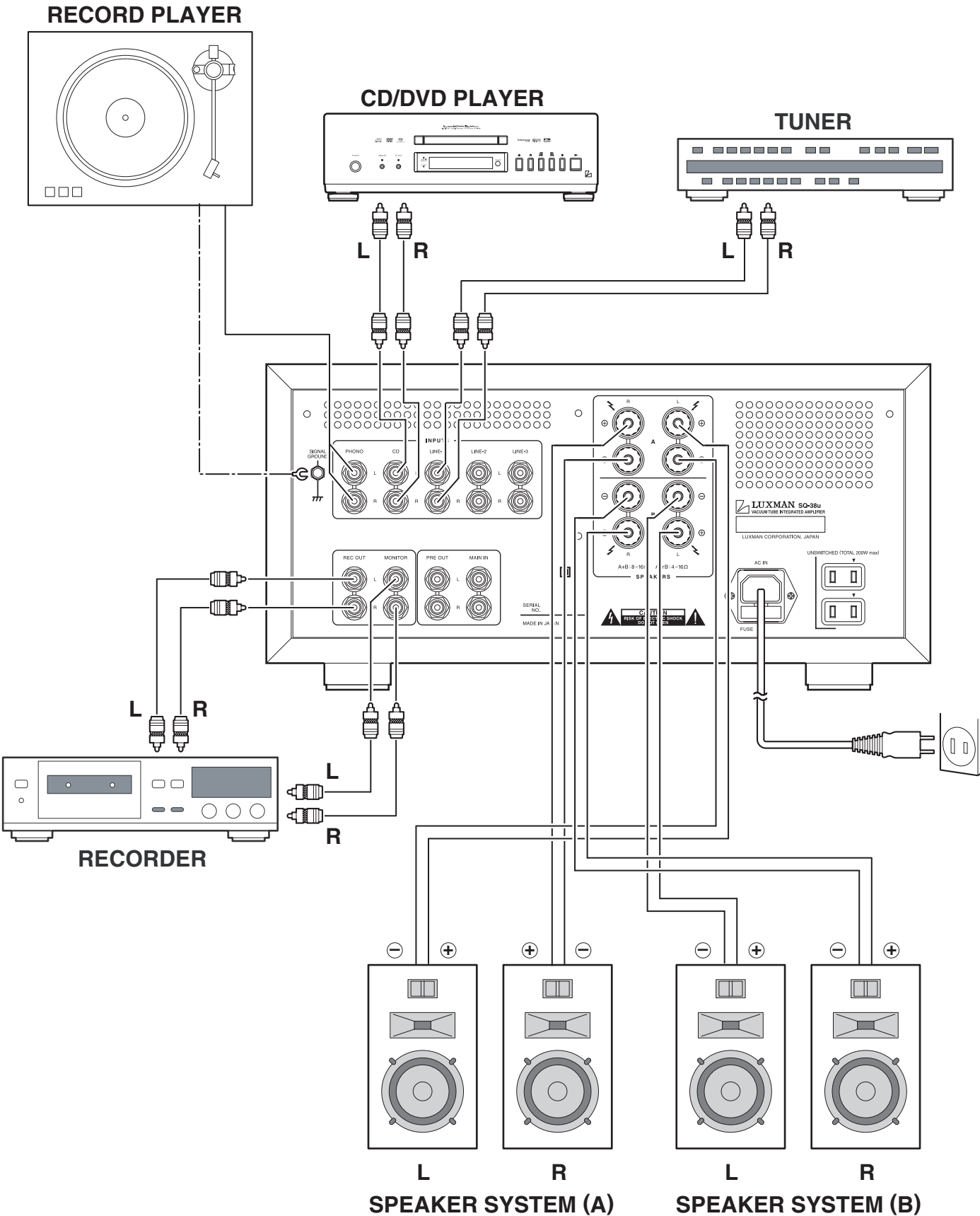
本機の左スピーカー端子に左チャンネル用のスピーカーを、右スピーカー端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。

スピーカー・システムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕側）端子に、スピーカー・システムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖側）端子に、確実に接続してください。このとき、左右スピーカー・システムの一方だけの ⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり低音が減少し、音の定位が悪くなるなどの状況が生じ、正常なステレオ再生ができなくなります。

## 他の機器の電源ケーブルの接続

メモリー（記憶）機能を持った機器には、常に電源が供給されていることが必要です。

本機の AC アウトレットからこれらの機器に電源を供給する場合は、本機の電源プラグを必ず差し込んでおいてください。



# 操作方法

## 操作する前に

1. 接続が確実に行われているか確認してください。  
(L, R や ⊕、⊖ の接続の誤りがあると正常な再生ができません。)
2. 電源 ON/OFF 時や入力セレクター (INPUT SELECTOR) を切り換えるときは、音量 (VOLUME) を最小にしてから行ってください。

## 再生の手順

1. 音量 (VOLUME) が下がっていることを確認し、電源スイッチ (OPERATION) を押して ON にします。
2. 再生する接続機器を入力セレクター (INPUT SELECTOR) で選択します。
3. 音量をボリューム (VOLUME) で調節します。
4. 再生するソースに応じてトーン・コントロール (TONE CONTROL) を操作します。

## バランス・コントロールの操作

左右チャンネル間の音量バランスを調節することができます。

左右チャンネル間の音量バランスの調節が不要なときは、中央位置で使用します。

## トーン・コントロール機能の操作

本機のトーン・コントロール (TONE CONTROL) 機能には、低域用レベル・コントロール (bass) と高域用レベル・コントロール (treble) があります。

低域用レベル・コントロール (bass) は、低音域を変化させるものです。中央位置でフラットな周波数特性となるように設計されており、この位置より右に回すと低音域が増強し、左に回すと減衰します。

高域用レベル・コントロール (treble) は、高音域を変化させるものです。

低域用レベル・コントロール (bass) と同様に、中央位置でフラット、右に回すと高音域が増強し、左に回すと減衰します。

なお、低域用レベル・コントロール (bass)、高域用レベル・コントロール (treble) はいずれも左右チャンネルが連動して働きます。

---

## 安全上のご注意

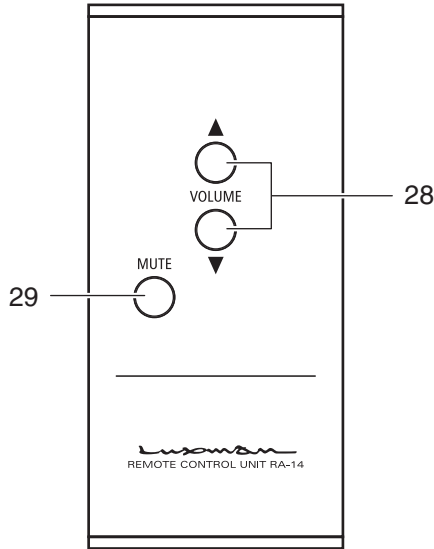
---



本機は真空管を使用したアンプです。電源の入った状態では本体がかなり熱くなりますので、手で触れたりすることのないようお気をつけください。また小さなお子様や放し飼いにしたペットのいる場所でのご使用は安全のためお控えください。

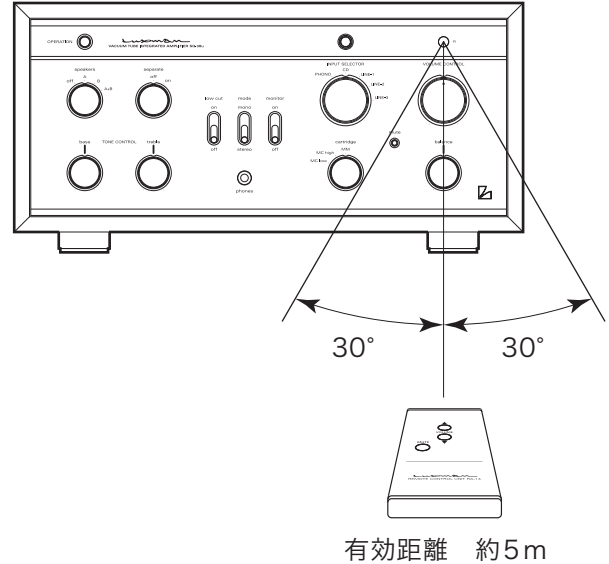
---

## リモートコントローラー (RA-14)



## リモコンについて

リモコンは、本機のリモコン受光部 (R) へ向けて、図の範囲でお使いください。



### 28. ボリューム (VOLUME, ▲, ▼)

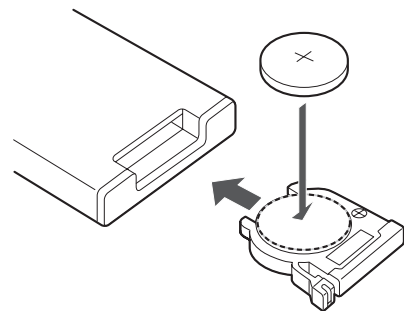
音量を調節するためのボタンです。▼で音量を小さく、▲で音量を大きくします。

### 29. ミュート (MUTE)

一時的に消音するためのボタンです。このボタンを押してミュート状態にすると本体のボリューム・インジケータが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

### 【電池の入れ方】

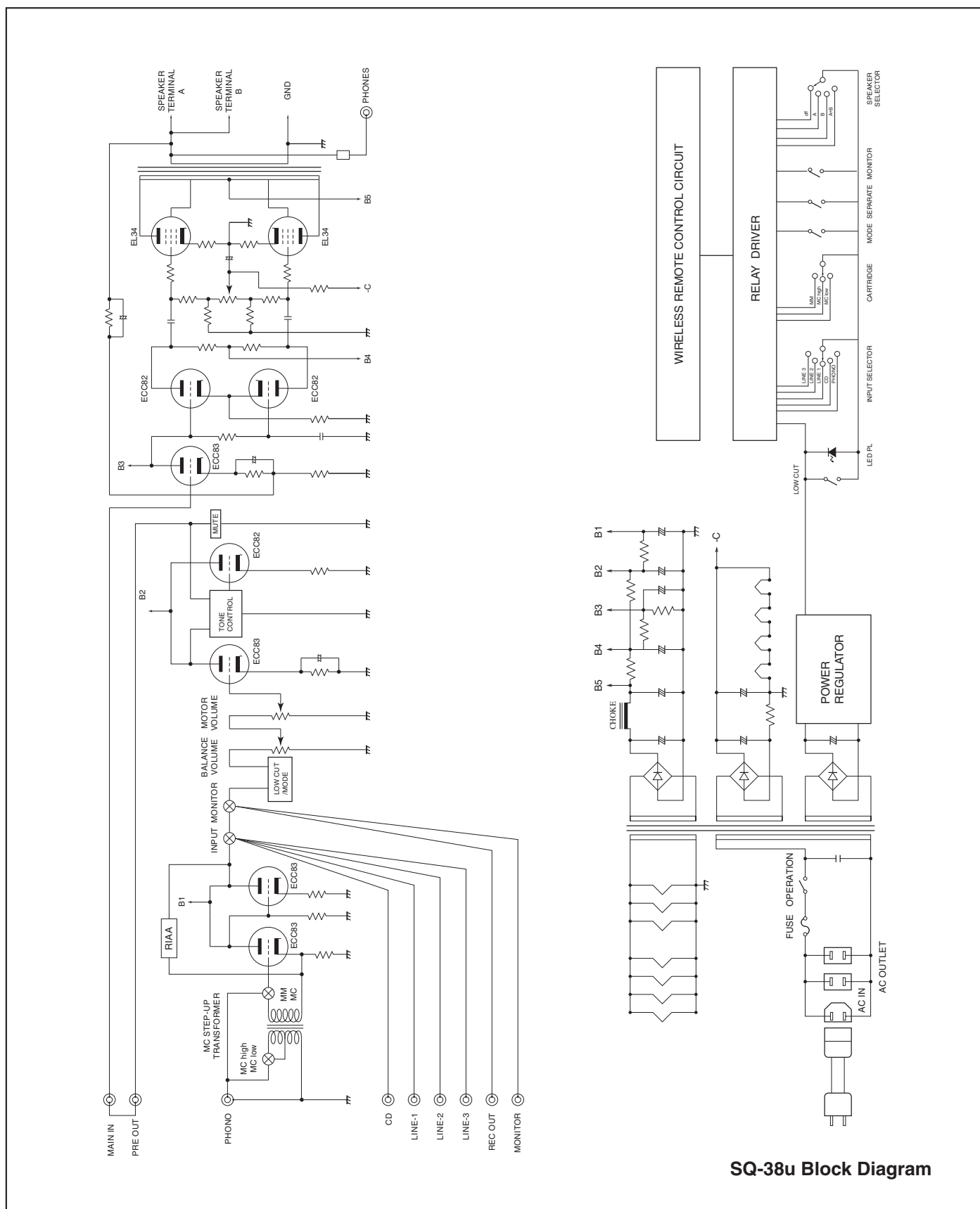
1. リモコンの裏面にあるバッテリー・カバーのツメに指をかけて、バッテリー・カバーを下へスライドして開きます。
2. バッテリー・ケースの中へ、図と同じように電池 (CR2025) を入れます。
3. バッテリー・カバーを閉じます。



※電池が消耗してくると、有効距離が短くなったり、スイッチを押しても動作しません。このような時は、電池を新しいものに交換してください。

※長時間リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

# ブロックダイアグラム



定格出力	30W + 30W (6Ω)、25W + 25W (8Ω、4Ω)
入力感度 / 入力インピーダンス	1.0V / 47kΩ
周波数特性	20Hz ~ 100kHz (-3dB 以内)
全高調波歪率	0.5% 以下 (1kHz、30W / 6Ω)
S/N 比	75dB 以上 (IHF-A 補正)
入力	フォノ (MM / MC high / MC low 対応) 1 系統、ライン 4 系統
録音入出力	録音出力、モニター入力 各 1 系統
セパレート入出力	プリ出力、メイン入力 各 1 系統
出力	スピーカー出力 A、B (独立切替、同時出力も可能)
付属機能	<p>[フロントパネル]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電源スイッチ</li> <li>・ミュート</li> <li>・入力セレクター</li> <li>・カートリッジ切替 (MM / MC high / MC low)</li> <li>・セパレート ON/OFF</li> <li>・トーンコントロール (バス、トレブル)</li> <li>・モノラル</li> <li>・ヘッドフォン出力端子 (標準)</li> <li>・音量ボリューム</li> <li>・バランス</li> <li>・スピーカー切替 (A、B、A + B)</li> <li>・ローカット</li> <li>・モニター</li> </ul> <p>[リアパネル]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入出力端子</li> <li>・AC インレット</li> <li>・AC アウトレット (非連動・最大 200W) 2 系統</li> <li>・信号グラウンド端子</li> </ul> <p>[リモコン機能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音量 (アップ / ダウン)</li> <li>・ミュート</li> </ul>
回路方式	ドライバー：ムラード回路、出力：UL 接続
使用真空管	EL34 × 4 本、ECC83 × 4 本、ECC82 × 3 本
付属品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモコン</li> <li>・端子保護キャップ</li> <li>・保証登録書</li> <li>・電源ケーブル (JPA-10000)</li> <li>・取扱説明書</li> <li>・安全上のご注意</li> </ul>
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)
消費電力	185W (電気用品安全法による規定)、150W (無信号時)
最大外形寸法	400 (W) × 196 (H) × 310 (D) mm (奥行きは端子 / ノブを含まず)
重量	20.0kg (本体)

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

# アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

ラックスマン製品の保証期間は購入日より起算して2年間（ただし、真空管などの消耗品は1年間）です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくても点検代、出張費等をいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差込まれていない。	・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・電源プラグが AC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグを AC インレットへ確実に差し込む。
電源は入るが音が出ない。 (左右チャンネル共)	・ボリュームが最小の位置になっている。	・ボリュームを右に回して音量を調節する。
	・ボリュームがミュートになっている。	・ミュートを解除する。
	・インプット・セレクターが再生するソースの位置にセットされていない。	・インプット・セレクターを再生するソースの位置にセットする。
	・接続ケーブルの接続が不完全。	・接続ケーブルを確実に接続する。
	・再生機器の出力レベルが最小になっている。	・出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・接続を確実に行う。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	・ピンプラグ・ケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ピンプラグ・ケーブルのアース側が接続するように確実に接続する。
	・レコード・プレーヤーのアース線が接続されていない。	・レコード・プレーヤーのアース線をシグナル・グラウンド端子に接続する。
	・レコード・プレーヤーのカートリッジとシェル、またはシェルとトーンアームの接続・取り付けが不完全。	・カートリッジ、シェル、トーンアームを確実に接続（取り付け）する。
	・接続ケーブルと電源ケーブルが接近しすぎている。	・接続ケーブルと電源ケーブルを離す。
	・他機器の電源トランスから誘導をノイズを受けている。	・他機器から離して設置する。





